

料金別納郵便



高橋朋子 展 —永遠と刹那—

令和7年12月4日(木)~9日(火) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時（最終日9日は午後5時まで）

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

金は富や成功の象徴もしくは信仰や権力欲といった根源的な欲の表象であることが多いが一方で純粋な輝きや神聖さを意味することもある。高橋朋子さんは自然の情景を金や銀の箔による幾何学模様で表現する陶芸家で、その作品は華やかさと荘厳さが両立する稀有なタイプである。

朋子さんの作品を初めて目にしたのはいつのことだったか。決して冷たいわけではないがまわりと一線を画す孤高の美しさを感じたことを今でも記憶しているが、ご本人も芯が強く穏やかで上品な人である。その内面の強さは透明感へとつながり、さらに作品にも表れていて、作品は作者を映す鏡であると実感する。

さて今回は人気の「遊ぶ月」のシリーズに加え、昨年旅したモンゴルと故郷北海道の景色をイメージした「寧」と銘打った作品が出品される。ライムグリーンのボディに銀箔で加飾された凛として神秘的な作品だ。晩春から初夏にかけての山や草原の風景に永遠を感じ、その一瞬をとらえたそう。もう一点、「玄の月」と名付けられた水指は、上絵と金属箔の化学反応を利用して発色させた黒い胎に幾何学模様の金箔が印象的な作品だ。命の明滅を表現したというこの器は官能的でずらあり、愛や生、死を表現したクリムトの絵画をも想起させるほどに、きらびやかで刹那的で美しい。

岩井美恵子（国立工芸館 工芸課長）

陶歴 平成11年 沖縄県立芸術大学 大学院 修了
平成13年 千葉県八街市にて開窯
平成28年 「近代工芸と茶の湯Ⅱ」 国立近代美術館 工芸館
令和 元年 第25回 日本陶芸展 茨城県陶芸美術館賞、現在形の陶芸 萩大賞展V 佳作賞
第116回 有田国際陶磁展 日刊工業新聞社賞
第8回 菊池ビエンナーレ 奨励賞（平成27、29、令和3、7年入選）
令和 3年 「近代工芸と茶の湯のうつわ」 （国立工芸館／石川）、笠間陶芸大賞展 奨励賞
令和 6年 第71回 日本伝統工芸展 NHK 会長賞（平成28年以降9回入選）
第2回 日本工芸会 × 飛鳥クルーズ賞
令和 7年 第17回 現代茶陶展 TOKI 織部優秀賞（同平成29年、令和2、4、7年）
「Moon Pavilion 光の詩を刻む」 緑ヶ丘美術館本館

柿ヶ丘ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式Instagram



160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com



